TOWARD THE NEXT STAGE

みんなでつくる「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

飯田文化会館 ニュースレター

2024.10
Vol. 11

TAKE FREE

第1回　飯田市新文化会館整備に関する専門家会議

基本構想の実現に向けて

8/23 Fri Report

第1回　飯田市新文化会館整備に関する専門家会議

基本構想の実現に向けて

昨年度に飯田市新文化会館整備検討委員会でまとめられた基本構想の実現に向けて、専門家会議が始まりました。第1回目は佐藤健市長も同席し、冒頭ではこの会議の目的・役割について確認。その後、市側から以下のとおり現在の状況とそれに伴う課題が提起され、それらを踏まえ、専門家の皆さんによる意見交換が行われました。

基本構想策定後に整理された現在の状況

1　建設費が急激に高騰し先を見通せない状況になってきている

建設資材費などの高騰、労務費の上昇、人材不足などの影響により、全国の類似施設の整備事業において、入札が不調・不落となる事案が複数発生している

2　基本構想を具現化するためには広大な敷地が必要となる（確保済みの市有地なし）

- 駐車場を確保しつつ、施設を一カ所、一体的に整備しようとすると2ha以上の敷地が必要となる
- 新たな敷地を確保する際に用地費および移転補償費が必要となる
  さらに、建設費の高騰による移転補償費の増高が懸念される

3　リニア中央新幹線の工期延長に伴い市の長期財政見通しの見直しが必要となる

- 新文化会館の整備は2027年以降としていたが、リニア中央新幹線新駅の土木工事の工期が2031年12月までと延長された
- 新文化会館整備を含め、市の長期財政見通しの見直しが必要となる

専門家会議　委員

佐々木宏幸（ささきひろゆき）　明治大学教授／博士／一級建築士／米国公認都市計画家

専門家会議　委員

小澤櫻作（おざわおうさく）　竹田市総合文化ホール グランツたけた（大分県）チーフプロデューサー
元 上田市交流文化芸術センター（サントミューゼ）プロデューサー

専門家会議　委員

山元　浩（やまもと　ひろし）　愛知県立芸術大学 特任職員
元 名古屋フィルハーモニー交響楽団 演奏事業部長

専門家会議 事務局

草加叔也（くさかとしや）　公益社団法人 全国公立文化施設協会 アドバイザー
劇場計画コンサルタント／空間創造研究所 取締役
元 岡山芸術創造劇場長

基本構想（令和4～5年度策定）

基本理念

みんなが集い、創り、伝える、
感動の飯田ひろば

「ひと」を育み、「まち」を育み、
「活力」を生み出す

5つの基本方針

集う、観る、創る、伝える、育む

文化ホールは「アクティビティを

市民の皆さんが利用することを考えると、施設が1か所よりは、それぞれのエリアに文化芸術の活動拠点が必要ではないか。

仮に現在の場所に建て替えとなり代替施設がない場合、建設中に文化芸術が停滞することになりかねない。また、新しいホールの開館後、大規模修繕や改修工事が当然ながら出てくるので、文化活動に障害や支障がないような施設整備が必要ではないか。

多くの文化ホールを利用している立場からすると、文化ホール全体の印象はその中を利用することで変わってくる。中身重視で使いやすいデザインを。

山元 委員

専門家会議の目的、役割

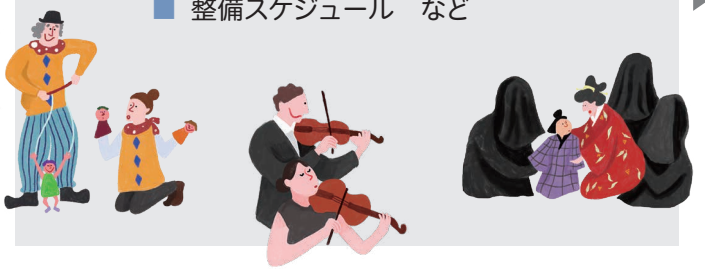
「新しい文化会館の整備に関する基本構想」をよりどころにした基本計画および管理運営計画を検討するにあたり、舞台芸術、文化施設、空間デザインなどに関する有識者の皆さんからご意見を頂く。

基本計画

基本構想の実現に向け、体系的・計画的に検討し、施設構成や設備を計画する。

［具体案・・・計画］

〈例〉
- 新施設の整備方針
- 新施設と周辺地域を含めた地域振興
- 事業の考え方
- 管理運営の考え方
- 諸室計画
- 施設整備事業費等の考え方
- 整備スケジュール　など



管理運営計画

基本構想の基本理念と５つの基本方針の実現に向け、事業方針、施設の利用、施設の管理運営などを検討し、施設の管理運営を計画する。

［具体案・・・計画］

〈例〉
- 基本方針、事業方針、施設利用、施設管理運営 など

基本設計

設計図の基本となるもので、具体的なイメージを明確にする。

［設計書・・・大まかな仕様］

〈例〉
- 構造、レイアウト
- 機能や設備、主要な技術的検討
- 内外のデザイン
- ライフサイクルコスト検討 など

実施設計

詳細な部分まで設計図を作成する。工事に必要な積算をする。

［設計図・・・詳細な図面］

〈例〉
- デザインと技術面の詳細設計図など
- 平面、立面、断面、サイン電気給排水、空調
- 工事費の積算など

サポートする場」であり、「人とともに成長していく場」

場所とアクティビティは大きな関係がある。郊外にある文化ホール、市街地にある文化ホール、それぞれ期待されることや得意とする活動も異なる。どのように集うのか、ほかの地域の文化ホールの特色も参考にしていけたら。

アウトリーチの手法が舞台芸術分野にも定着してから、アクティビティの自由度が増して、街中に広めていけるようになってきた。「劇場は人」といった視点も大切にしながら、街中にあるいろんな拠点と協力し、一体となった運営方式まで検討できれば、さまざまなアクティビティを中心とした考え方にたどりつけるのではないか。

これからの時代「移動」をどう捉えるか。「バーチャルな場」も広い視野で捉え、人の移動とプログラムの移動をどう組み込んでいくかを考えていくことも重要。

分散しているほかの施設を活用しながら、まちに人がにじみ出てくるようなきっかけを与える施設の計画が必要となる一方で、利便性とコストのバランスをいかにとるかも考える必要がある。

アクティビティをより具体的なものに突きつめ、街の中にアクティビティが自然と生まれ、「ひろば化」されるような内容を検討していきたい。

基本計画については、設計に対してミッションを与えるものを策定することが大きな使命。

整備費については、世界事情や労働環境、市の事情が大きく影響する。施設に人が来るための優位性、まちへの波及派生効果をどう生かしていくかを検討していく必要がある。また、最終的に整備の内容が敷地にマッチングするかどうか、「市民の暮らしに貢献できる価値ある施設に」といった根源的な部分を施設にどうつなげていくかも大きな課題。

現状の課題をいかにプラスにできるか　段階的、分散型の整備の可能性も含めた検討を

会議の前段では「建物の構造的な部分だけでなく、アクティビティが市民の暮らしや空間に対し、どういう波及効果を生み出せるかという視点を最後まで見失ってはいけない」といった考えを共有。市の現状や事情をふまえ、他地域の文化ホールの例を参考に、敷地や整備費の問題を中心に話し合われました。

会議の中では「利用者・観客・アーティスト・スタッフ・運営者など、多くの人が集い、創り、文化ホールとともに成長していく、という考えを大事にしていきたい」といった基本構想に触れる意見や、他地域の文化ホールを参考に「まちの文化活動を回していくには、既存施設との連携と適切な活用がとても重要」「ランニングコストも考えると、見合った規模を考えていくべき」と言った意見のほか、さまざまな文化施設の管理運営に携わってきた委員からは、「完成後は維持管理費の工夫も必要となるため、スペックの最適化などの課題も出てくる」といった開館後の事案も出されました。

現状の課題から、１カ所に一帯で整備しようとすると多くの課題があるため、ある委員からは「課題解決のアイデアとして、段階的に分散させて作っていけば、一帯での整備でも、実現できる可能性は大きくなる。マイナスに見える状況を、いかにプラスにできるか。課題解決につながるアイデアを、どう議論に盛り込み、時代の潮流に対応しうるもので基本構想を実現させるか。開館後の継続的な文化活動を見据えて検討していきたい」といった意見が示されました。

飯田文化会館 今昔物語 vol.5

市民の手でつなげてきた「伊那谷文化芸術祭」のこれまで

飯田下伊那に暮らす皆さんの舞台芸術活動の成果を表現する「伊那谷文化芸術祭」。舞台芸術活動を行う郡市民が、さまざまなジャンルや団体・個人、世代の違いを超えて一堂に会した発表の場として、長年にわたり親しまれているこのイベントは、毎年11月、4日間にわたって開催されています。

昭和62年の開催から今年で38回目。初回は46団体の出演も年々増加し、今年は60団体を予定しています。

出演も運営も市民が行う「飯田方式」が受け継がれています

主催の飯田文化協会と飯田文化会館だけでなく、出演団体や出演者が積極的に運営にも関わっており、その組織のあり方は「飯田方式」とも呼ばれていることも大きな特徴。人々の心のつながりやお互いを理解し尊重しあう場と、新たなる文化的土壌の創出。これらを通じて、手づくりの「伊那谷文化芸術祭」を開催することで、舞台芸術団体や個人の交流と互いの成長を目指しています。

発行：令和6年10月　制作：飯田文化会館　〒395-0051 長野県飯田市高羽町5-5-1　TEL 0265-23-3552　FAX 0265-23-3533
新文化会館の整備検討に関する資料は、飯田市のウェブサイトで公開しています。https://www.city.iida.lg.jp/　新文化会館　検索